

<凡例>

1. 対象範囲について

- ・本書は、那須塩原市管内のうち、合併前の旧西那須野町（西那須野地区）及び旧塩原町（塩原地区）の管内の全域を対象としたものである。旧黒磯市（黒磯地区）の管内に関しては、1998年（平成10年）3月に調査報告書を発行済みである。
- ・本書で掲載している野生動植物種の目録は、原則として、合併後の2005年度（平成17年度）から2009年度（平成21年度）にわたって実施した那須塩原市動植物実態調査事業における現地調査によって得られたものを収録したが、調査報告書を執筆するにあたって、各執筆者の判断により各種文献記録等も採用した。

2. 地域区分について

- ・現地調査及び文献調査は、原則として、西那須野地区及び塩原地区の区域を以下の4つの地域に分割して実施した。
- ・本書で記述している地域区分は、全て以下の定義に基づく。

【地域区分図】



【凡例】

地域区分	範囲
A地域	国道4号以南の地域
B地域	国道4号と東北縦貫自動車道に挟まれた地域
C地域	東北縦貫自動車道以北で海拔500m未満の地域
山岳地域	海拔500m以上の地域

- ・文献記録に拠る種の場合、当該引用資料に掲載されている場所に関わる情報から即地的に把握できる場合は、当該種の確認・調査場所が該当する地域区分を採用した。当該引用資料に掲載されている場所に関わる情報が、町名・字名等の場合、当該町名・字名等が概ね該当する地域区分を採用した。よって、当該引用資料に掲載されている場所に関わる情報が、大まかな記載であるときは、「目録」の項の中で当該種の世界区分を示していない場合がある。
- ・なお、C地域と山岳地域の境界付近で確認した種に関しては、各執筆者に該当する地域区分の判断を委ねた。しかし、必ずしも海拔 500mを基準に明確に区分けしたとは限らない場合があるため、各分類群間で両地域の境界付近で確認した種の世界区分は必ずしも一致していない。

3. 基本項目（構成）について

- ・本書では、植物、哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、魚類、昆虫及び貝類の計7つの分類群毎に各部会が関係する分野を執筆した（爬虫類と両生類は同じ項の中でまとめた）。ただし、貝類に関しては、担当する部会を設置していないため、事務局で執筆した。なお、昆虫は、対象種数の多さを勘案し、目毎に細分化して掲載し、最後に総括の項を設けた。
- ・各分類群ともに以下の基本項目に基づく構成としたが、各執筆者の判断により、若干、構成を変えている場合がある。また、執筆者が見解を記述する際の判断材料の制約等により、基本項目の一部を割愛している場合もある。
- ・執筆者に関しては、「目録」の項の前の基本項目の末尾に「文責」として氏名を記載した。連名の場合は、共同執筆を示す。なお、基本項目毎に執筆を分担している場合は、当該基本項目の末尾毎に「文責」として氏名を記載した。

【基本項目（構成）】

基本項目	内容
1. 生息状況	調査の概況、当該分類群の全体的な生育・生息状況 等
2. 保全すべき種	市として保全に配慮すべきと考えられる種※1
3. 保全すべき地域	市として保全に配慮すべきと考えられる地域※2
4. 保全への提言	保全すべき種や保全すべき地域等に対する保全の方策※3
◇目録	当該分類群の調査で得られた種の一覧表※4
◇参考文献・引用文献	原稿の執筆や目録の調製にあたって参考とした、引用した文献

- ※1：各執筆者（部会）において、調査の結果、種の保存法等関係法令の指定状況、環境省・栃木県のレッドデータの指定状況、市全体の分布状況等を勘案し、市として希少であると判断した種である。なお、昆虫の場合、目によっては、その他に「注目すべき種」として、今後、その生息環境・分布等を注視していくべきと考えられる種に関しても選定した。各種の詳細な選定理由は、本書の各項を参照されたい。
- ※2：各執筆者（部会）において、調査の結果、「保全すべき種」がまとまって生息・生育しているなど、市全体の分布状況等を勘案し、その土地利用に配慮する必要があると判断した地域である。各地域の詳細な選定理由は、本書の各項を参照されたい。
- ※3：各執筆者（部会）において、「保全すべき種」や「保全すべき地域」等の保全に向けた、市に対するその方策を提言したものである。なお、昆虫の場合、「保全への提言」の項目を割愛している目があるが、「保全すべき種」の解説の中で述べている場合がある。
- ※4：目名、科名、種名（和名・学名）及び地域区分（該当する地域区分に○印を記載※5）を掲載した。なお、目・科の分類、目・科・種の配列、種の和名・学名の根拠に関しては、各執筆者の判断に委ね、各「目録」の項の冒頭で準拠した出典を明らかにした。
- ※5：ただし、昆虫については、標本の所在を明らかにすることを考慮し、文献記録に拠る種の場合、□印で表記するとともに*印に番号を付し、巻末の「参考文献・引用文献」の項において、目録に引用した文献名の末尾にも*印と番号を付し、出典を明確にした。なお、

文献記録に拠る種のうち、確認域が明確でない種に関しては、地域区分を除外した。また、同一地域区分内において、現地調査でも確認した種に関しては、文献記録を記載しなかった。

4. 採用レッドデータについて

- ・各分類群における「保全すべき種」及び「注目すべき種」（昆虫のみ）の見出しには、該当するレッドデータのカテゴリー（ランク）を記載した。
- ・本書で採用したレッドデータは、以下のとおりである。2010年（平成22年）3月現在で公表されている直近のものを使用した。

【採用レッドデータ】

発行	公表時期	内容
環境省	2006年（平成18年）12月22日	レッドリスト（鳥類、爬虫類・両生類）
	2007年（平成19年）8月3日	レッドリスト（植物、哺乳類、魚類、昆虫、貝類）
栃木県	2005年（平成17年）3月	2005 レッドデータブックとちぎ

- ・なお、レッドデータのカテゴリー（ランク）の定義は、以下のとおりである。

【環境省・栃木県レッドデータカテゴリー（ランク）比較】

環境省		栃木県	
区分	基本概念	区分	基本概念
絶滅（EX）	■我が国ではすでに絶滅したと考えられる種	絶滅	■県内ではすでに絶滅したと考えられる生物
野生絶滅（EW）	■飼育・栽培下でのみ存続している種		
絶滅危惧		絶滅危惧Ⅰ類（Aランク）	■絶滅の危機に瀕している生物 ・現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）	■絶滅の危機に瀕している種 ・現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。		
絶滅危惧ⅠA類（CR）	・ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。		
絶滅危惧ⅠB類（EN）	・ⅠAほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。		
絶滅危惧Ⅱ類（VU）	■絶滅の危険が増大している種 ・現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。	絶滅危惧Ⅱ類（Bランク）	■絶滅の危険が増大している生物 ・現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
準絶滅危惧（NT）	■存続基盤が脆弱な種 ・現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。	準絶滅危惧（Cランク）	■存続基盤が脆弱な生物 ・現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
情報不足（DD）	■評価するだけの情報が不足している種	情報不足	■評価するだけの情報が不足している生物
絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	■地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの	絶滅のおそれのある地域個体群	■地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群
	※環境省では「要注目」に該当する基本概念はない。	要注目	■注目すべき生物 ・保護上留意すべき生物、または特徴ある生息・生育環境等により注目すべき生物。

※出典：2005 レッドデータブックとちぎ（栃木県）

5. 掲載種数について

- ・本書では、全部で127目、544科、5,593種を網羅（確認）し、「保全すべき種」を278種、「注目すべき種」を73種選定した。

【調査報告書掲載種一覧】

分類群	目数	科数	種数		
				保全すべき種数	注目すべき種数
植物	66	164	※1,612	☆152	—
哺乳類	7	16	29	12	—
鳥類	16	41	160	34	—
爬虫類	1	4	8	1	—
両生類	2	6	14	8	—
魚類	8	11	※22	10	—
昆虫	21	279	3,673	57	73
貝類	6	23	※75	4	—
計	127目	544科	5,593種	278種	73種

※植物の総数は、種数・亜種数・変種数・雑種数を、魚類及び貝類の総数は、種数・亜種数を累計した「総種類数」である。

☆ジガバチソウとアオジガバチソウは「目録」においては区分したが、「保全すべき種」としてはジガバチソウ1種として選定した。

6. 読み仮名について

- ・固有名詞に関しては、特殊な読み方をするものや、地名か河川名かなど、読解し難いものがあるため、以下に本書で表記がある本市管内の場所を示唆する固有名詞の読み仮名を主な区分毎に示す（五十音順）。なお、以下の名称には、いわゆる通称も含まれる。

【読み仮名一覧】

■地域（町名、字名等）の名称

赤田(アカダ)	東町(アズマチョウ)	あたご町(アタゴチョウ)	甘湯(アマユ)
新湯(アラユ)	井口(イグチ)	石林(イシバヤシ)	板室(イタムロ)
板室本村(イタムロホンソン)	一区町(イクチョウ)	宇都野(ウツノ)	上の原(ウノハラ)
大網(オアミ)	大貫(オオスキ)	遅沢(オソザリ)	遅野沢(オソノザリ)
折戸(オリト)	金沢(カネザリ)	金沢中(カネザリナカ)	鹿野崎(カノサキ)
上赤田(カミアカダ)	上大貫(カミオオスキ)	上塩原(カミシオハラ)	上横林(カミヨコバヤシ)
北和田(キタワダ)	共墾社(キョウコンシャ)	熊久保(クマクボ)	越堀(コエボリ)
小滝(コタキ)	埼玉(サキタマ)	笹沼(ササヌマ)	三区町(サンクチョウ)
塩釜(シオガマ)	塩野崎(シノサキ)	塩の湯(シノユ)	嶋内(シメウチ)
下大貫(シモオオスキ)	下塩原(シモシオハラ)	下永田(シモナガタ)	下中野(シモナノ)
白戸(シラト)	杉渡土(スキワタ)	須巻(スマキ)	関根(セキネ)
関谷(セキヤ)	千本松(センボンマツ)	高阿津(タカアツ)	高林(タカバヤシ)
高柳(タカヤナギ)	田代(タシロ)	太夫塚(タウヅカ)	塚原(ツカハラ)
槻沢(ツキサザリ)	寺子(テラコ)	中塩原(ナカシオハラ)	永田町(ナガタチョウ)
鍋掛(ナベカ)	二区町(ニクチョウ)	西遅沢(ニシオソザリ)	西富山(ニシトミヤマ)
西三島(ニシシマ)	接骨木(ニワトコ)	沼原/沼ッ原(ヌマッハラ)	根古屋(ネコヤ)

萩平(ハキダイ)	東赤田(ヒガシアカダ)	東遅沢(ヒガシオサヅ)	東小屋(ヒガシコヤ)
東関根(ヒガシセキネ)	東三島(ヒガシシマ)	藁沼(ヒキヌマ)	福渡(フクワタ)
二つ室(フツムロ)	古町(フルマチ)	箒根(ホウキネ)	本郷町(ホンゴウチヨウ)
前弥六(マエヤロク)	幕岩坪(マクイワツボ)	町井(マチイ)	三島(シマ)
宮島(ミヤジマ)	望田(モチダ)	元湯(モトユ)	百村(モムラ)
谷地畑(ヤチハタ)	湯宮(ユヅウ)	湯本(ユモト)	横林(ヨコハヤシ)
四区町(ヨシクチヨウ)			

■河川、湖沼の名称

赤川/沢(アカガワ/ザヅ)	赤沼(アカヌマ)	甘湯沢(アマユザヅ)	善知鳥沢(ウトウザヅ)
追沢(オイヤヅ)	大塩沢(オホシオザヅ)	大沼(オホヌマ)	鹿股沢/川(カノマタザヅ/カワ)
蕪中川(カブチュウカワ)	上戸倉沢(カミクラザヅ)	唐滝沢(カラタキザヅ)	清川(キヨカワ)
熊川(クマカワ)	郷川(コウカワ)	小蛇尾川(コサビガワ)	小沼(コヌマ)
桜沢(サクラザヅ)	蛇尾川(サビガワ)	清水川(シズミガワ)	下戸倉沢(シモクラザヅ)
津室川(ツムロカワ)	那珂川(ナカガワ)	野沢川(ノサヅカワ)	八方湖(ハッポウコ)
箒川(ホウキガワ)	元尾頭沢(モトビトウザヅ)	吉沼(ヨシヌマ)	

■山の名称

赤田山(アカダヤマ)	大倉山(オクラサン)	大佐飛山(オサヒヤマ)	男鹿岳(オカダケ)
鬼が面山(オニガツラヤマ)	月山(グツサン)	鹿又岳(カノマタダケ)	黒滝山(クロタキサン)
剣ヶ峰(ケンガミネ)	小佐飛山(コサヒヤマ)	権現山(ゴンゲンヤマ)	三本槍岳(サンボンヤリダケ)
鳴内山(ネウチヤマ)	釈迦ヶ岳(シヤカダケ)	白倉山(シラクラヤマ)	白笹山(シラササヤマ)
高原山(タカハラヤマ)	長者岳(チョウジヤダケ)	流石山(ナガレイシヤマ)	七千山(ナナセンヤマ)
西ボッチ(ニシボッチ)	二方鳥屋山(ニホトリヤサン)	比津羅山(ヒヅラヤマ)	日留賀岳(ヒルカダケ)
富士山(フジサン)	藤荷田山(フジニタヤマ)	前黒山(マエクロヤマ)	柵形山(マスカタヤマ)
三倉山(ミクラヤマ)	明神岳(ミョウジンダケ)	安戸山(ヤストヤマ)	弥太郎山(ヤタロウヤマ)
若見山(ワカミヤマ)	和田山(ワタヤマ)		

■史跡、景勝地、社寺、その他施設等の場所を示唆する名称

大川林道(オオカワリンドウ)	尾頭(オビシ)	塩那(スカイライン/橋)(エンナ)	学校平(カクコウダイ)
金神社(カネジンジャ)	墓石園地(カマシエンチ)	加茂神社(カモジンジャ)	鳥ヶ森(カラスカモリ)
木沢林道(キザワリンドウ)	光徳寺(コウトクジ)	小滝橋(コタキハシ)	木の葉石(キノハイシ)
材木岩(サエキイワ)	逆杉(サカサギ)	猿岩洞(サルイワトウ)	三斗小屋宿跡(サトコヤヤクアト)
正観寺(ショウカンジ)	宗源寺(ソウゲンジ)	大黒岩(オオクロイワ)	嶽山箒根神社(タケヤマホウキネジンジャ)
常盤ヶ丘(トキワカカ)	土平(トウダイ)	日塩道路(ニチエンドウロ)	乃木神社(ノキジンジャ)
箱の森(ハコノモリ)	八郎ヶ原(ハチロウガハラ)	八方ヶ原(ハッポウガハラ)	不動の湯(フドウユ)
咆哮霹靂の滝(ホウカキキノタキ)	法真寺(ホウシンジ)	回顧(の滝/吊り橋/橋)(ミカエリ)	宮崎橋(ミヤザキハシ)
深山ダム(ミヤマダム)	妙雲寺(ミョウウンジ)	妙雲尼塔(ミョウウンニトウ)	母智ヶ丘(モチガカ)
薬王寺(ヤクオウジ)	八汐ダム(ヤシオダム)	雄飛の滝(オウビノタキ)	雷霆の滝(ライテイノタキ)
竜化の滝(リュウカノタキ)	留春の滝(リュウシュンノタキ)		